

「奈良町のまちづくり四半世紀を振り返る」 セミナー開催される

7月20日、「奈良町のまちづくり四半世紀を振り返る」セミナーが、奈良町物語館（奈良市）で開催され、社団法人 奈良まちづくりセンターの初代理事長木原勝彬氏が「社団法人奈良まちづくりセンター20年の活動」と題して講演、約15名が聴講した。

近代以降の奈良町は、「観光都市」としての賑わいを保持するとともに、「商工業都市」としての歴史的背景の中で多くの業種が立地し、一定の経済力を有していたとみられる。このかわいには色々な業種の有名店が並び、買物客で賑っており、芝居小屋や映画館と一体となって大歓楽街が形成されていた。その後、国鉄や近鉄が開通されると人の流れが駅付近に移り、次第にさびれた街になっていた。

1984年「社団法人奈良まちづくりセンター」を設立、奈良町の再生のため、再発見運動を行った。この町の家屋は（道先が店、中庭があり、奥が住居の構造）になっていることに目をつけ、奈良市へ伝統的建造物保存と、建替え後の建物を伝統的な家屋とする提案をした。

交渉は難航したが、1990年奈良市が「都市景観条例」を施行、町並み形成補助金制度を制定した。その後住民が1軒、2軒と伝統的な家屋に建替え、今では10軒に増加。

文化的施設整備として、奈良市は「史料保存館」、「音声館」、「杉岡華邨書道美術館」など7館を建設した。民間も「奈良町物語館」、「奈良オリエント館」、「時の資料館」など6館を建設。商業施設は工芸雑貨店、物販店、飲食店が増加している。

小規模な店舗に、ごく限られた商品を置き、店主の個性がみられ、生活のにおいのする街のなかに店がある。近ごろは、観光客、地元の客も増加しており、地元以外の店の進出も増えている。

これからの課題としては、住民が高齢化していることから福祉問題への取組み、歩行者優先の交通体系の確立、ゴミ処理など環境問題への取組みが重要に

なっている、と20年間この仕事に携わった喜びをかみしめられていた。

行政主導の再生ではなく、民間主導により住民との対話に時間をかけながら行政とタイアップして進めてきたことが、奈良町を蘇えらせた。

（上田）



杉岡華邨書道美術館



奈良町物語館



奈良まちづくりセンター木原勝彬初代理事長